

Risk Flash No.186(Vol.5 No.28)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 教育の視点：商社マンから滋賀大学講師へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 教員紹介：小野善生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2

教育の視点

商社マンから滋賀大学講師へ

あらやまさよし
リスク研究センター客員研究員 荒谷勝喜

私は商社（伊藤忠商事）を定年退職後、滋賀大学の講師になり 4 年間にわたりエネルギー資源論の講座を担当しました。会社時代に社内外でのプレゼンテーションの経験はありますが、その時間はせいぜい 15 分から 20 分程度で長時間話すことはありませんでした。しかもテーマはほぼ同じ内容でした。大学での講義は一限 90 分ですが、東京からの通いの為、隔週授業で 1 回の講義は 3 時間となります。そして当然、毎回、別の話をしなければなりません。大学の先生はいつも大変な事前準備をされているのだと身にしみて感じました。しかしながら、3 時間もの長い時間受講してくれた学生が実は一番大変だったと思います。講師には、学生の成績評価という大きな責任があります。企業出身を理由に、評価は出席最重視、試験結果最重視の 2 本立てとしました。期末テストは試験 2 週間前にテーマを事前通知し、当日に答案に発表して貰う事にしました。試験を学生のプレゼンテーションの場と位置づけしたのです。答案をみてびっくりしました。テーマの「エネルギーの現状と問題点」を色々な観点からしっかりまとめたレポートが多数ありました。周到に準備してくれたのがよくわかります。滋賀大学の教師になって喜びを感じた瞬間です。

滋賀大学では、専門分野に秀で、学術知識も豊富、且つ世界の経済、社会情勢に卓越した見識と洞察力を持った多くの先生にお会いしました。学業の世界でも、それぞれの専門分野を通じて世界の動向、社会構造を観察、研究、分析しています。ビジネスの社会でも、銀行であれ、メーカーであれ、商社であれ、それぞれの担当者が自分の分野から世界の動きを勉強しています。私は講義で学生に社会人になることのメリットを話しました。“金融、官庁、メーカー、教育界、商社他、どこに勤めても担当分野を突きとめようとすれば、そこを通じて世界の動きがわかるようになります。何故なら、その分野を探究すればするほど、その基盤となる国内外の関連する経済社会情勢を勉強せざるを得ないからです。それも学生時代と違って給料を貰いながら勉強できるのです。”

大学退職後 3 年半になります。講義に出てくれた学生もいまや中堅若手となり、社会で奮闘中のことと思います。商社マンになった人もいます。卒業生の活躍を祈念すると共に、こんな素晴らしい経験をさせてくれた滋賀大学に感謝しています。

教員紹介「小野善生」

10月1日に約5年半ぶりに母校（45回卒）に復帰しました小野善生です。5年半という歳月は流れて、キャンパスもいろいろ変わりつつあり、時の流れを感じています。けれども、以前からお世話になっている先生や職員のみなさまには、「おかえり」と温かい声をかけていただき、人の温かさは以前と全く変わっていませんでした。「滋賀大はいい職場だ」と改めて思いました。

私が今取り組んでいる研究についてですが、地方の優良中小企業の経営管理、とりわけ、経営者のリーダーシップと社員のフォロワーシップを中心に調査しています。経済的には必ずしも恵まれているわけではない地域に事業活動の拠点を置きながらも、業績を上げ、地元経済に貢献している中小企業の経営者がいかなる行動をし、社員はいかなるところでモチベーションを上げて仕事に取り組んでいるのかを何度も足を運んで徹底的なフィールド調査をしています。逆境にありながらもパフォーマンスをあげる組織の仕組みやリーダーシップあるいはフォロワーシップの論理を明らかにすることは、地方経済や中小企業経営だけではなくあらゆるタイプの組織においても通用するものがあるのではないかと日夜研究に励んでいます。

また、教育に関しては、リーダーシップやチームワークを主にテーマとしておりますので、座学だけではなく、体を使った野外研修のようなリーダー育成のようなことも前の勤務先では取り組んでおりました。こちらの成果も、何らかの形で活かせるように考えています。

これからは、母校の発展のために、研究や教育および関連する様々な事柄に貢献していく所存です。

よろしくお願いします。



おのよしお
情報管理学科准教授 小野善生

リスク研究センター通信

経済経営研究所からのお知らせ

◇11月25日（火）原武治氏（早稲田大学非常勤講師）によるワークショップが開催されます。
演題：「大原孫三郎と原澄治にみる経営者の役割ー革新的リーダーと補佐役」
詳しくは <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2014/20141125hara.html> をご覧ください。

◇11月28日（金）力石伸夫氏（淡海環境保全財団理事長・元滋賀銀行専務・滋賀大学経済学部OB）による経済学部講演会が開催されます。
演題：「グローバル経済下における地域金融機関の役割と課題」
詳しくは <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2014/20141128.html> をご覧下さい。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

＊尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

＊当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月～金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>